

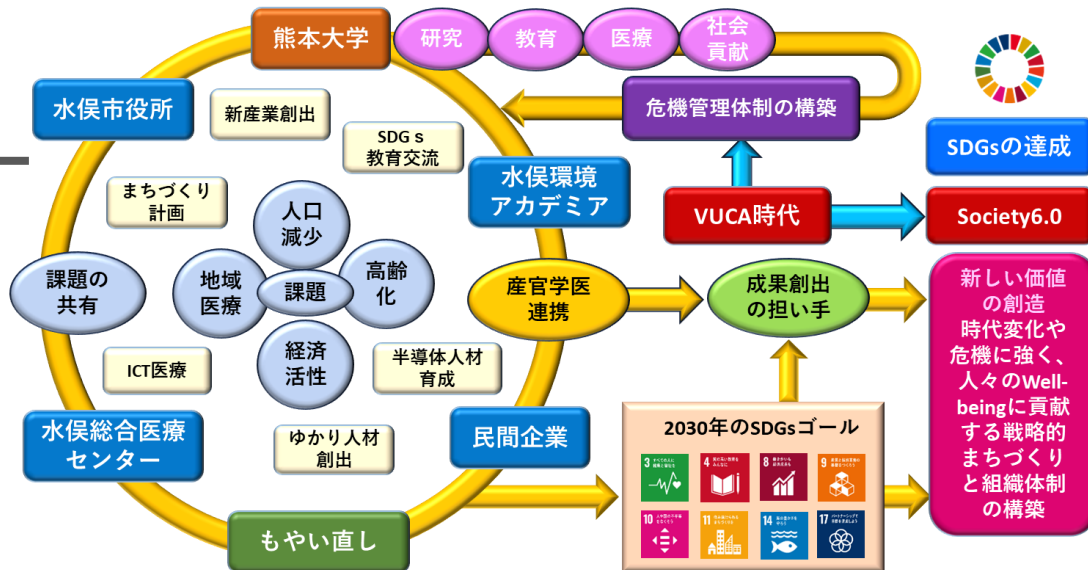


所属・氏名 生命科学研究部 総合分子医学講座 喜多加納子

1. 取組・プロジェクトの概要

熊本大学とSDGs未来都市に登録されている水俣市が協働しながら、Society6.0の社会を見据えたまちづくりに向けて、課題を発掘し、今からその種まきの柱となる施策を考え、実行する。

喜多加納子 熊本大学・助教 研究代表者 SDGs・危機管理・研究総括	高岡利治 水俣市役所・市長 まちづくり戦略・統括	原弘樹 水俣市役所・総務企画部長（財務省派遣）まちづくり連携	古賀実 水俣環境アカデミア・所長 SDGs・環境研究助言	坂本不出夫 水俣総合医療センター・病院管理者 ICT医療統括
------------------------------------------	--------------------------------	-----------------------------------	------------------------------------	--------------------------------------



2. 取組・プロジェクトの目的

VUCA時代とは変動性が高く、不確実で複雑、さらに曖昧さを含んだ社会情勢を示すが、そのような変化の大きい時代に、持続可能なまちづくりとそれを可能にする内外の組織体制の構築を通じて、地域を育む人を育て共に多様な取組みを実施しながら新規価値を創造することを目的とする。

3. 今年度実施した取組・プロジェクト ・本年度中のプロジェクトの取組

今回、熊本大学が水俣市役所、水俣環境アカデミア、水俣市立総合医療センターと連携しながら、まちの課題を収集し、企画を立て、限られた期間で取組を実行に移した。1つは、大学の知を生かした地域住民や若い世代に向けた人材育成、2つ目は、高齢者支援の取組みを実施した。



高岡市長の小川学長表敬訪問@熊本大学



関係者お打合せ@市長室

・上記の課題発見の取組によって生まれた成果

3-1: SDGsフェスタへの参加・市民公開講座での講演で女性研究者の仕事、癌の研究などについて紹介した



【市民公開講座参加者の感想を水俣市役所HPより抜粋】：主として中高生が参加し、『研究者の中でもこんなに広い分野に精通していて、しかも女性の方であることにとっても勇気をもらった』『自分の中の研究者像ががらっと変わった』『研究の内容がとても興味深く、人間の体のつくりやがんに興味を持った』『研究者の枠にとらわれずに、地域や企業などとも連携して、積極的に活動されている様子がよく分かった』などの感想が寄せられた。

今後の展望

【小川学長の水俣訪問の実現】・【熊本大学と水俣市の産学官医連携体制の構築による、地域貢献が出来る人材の育成】・【水俣市PR強化のためのマーケティング力の醸成】・【まちの課題解決に向けたプロジェクトの継続】・【危機管理時に有効な取組の選定】、などについて取組んでいきたい。

3-2: 水俣総合医療センターへの対話支援システム導入

患者を含む高齢化による、聴力機能の衰え・ヒアリングフレイルによる聴こえ・対話などのコミュニケーション課題を克服するため対話支援システム機器commuonを導入した。



【HCU、リハビリテーション部で使用された感想の抜粋】：『非常にスムーズなコミュニケーションが可能であった』『大きな声が不要で、周囲の患者様への影響も少ない』『看護師の体力消耗軽減につながる』『何をされるかわからない不安を解消・軽減できる』『患者さんも聴こえることで、よりよく理解できることを喜ばれている様子』などのお声が寄せられた。